◆　目黒区　◆

中小企業の景況

平成 25 年度第 3･四半期
（平成 25年 10～12 月）

目黒区　産業経済部　産業経済・消費生活課

目　　次

１．都内中小企業の景況　1
２．目黒区内中小企業の景況（平成 25 年 10～12 月期）　2
　（１）今期の特徴点　2
　（２）今期の景況と来期の見通し　5
　　製造業　5
　　卸売業　9
　　小売業　12
　　サービス業　15
　　建設業　18
　（３）調査員のコメント　21
３．日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 25 年 12 月）　24
４．特別調査「平成 26 年の経営見通し」について　27
５．中小企業景況調査　比較表・転記表　29

調 査 の 概 要

１．調査時期　　平成 25 年 10 月～12 月期（四半期毎実施）

２．調査方法　　面接聴取調査

３．調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製　造　業	103	102
卸　売　業	29	28
小　売　業	59	59
サ ー ビ ス 業	61	60
建　設　業	47	46
合　計	299	295

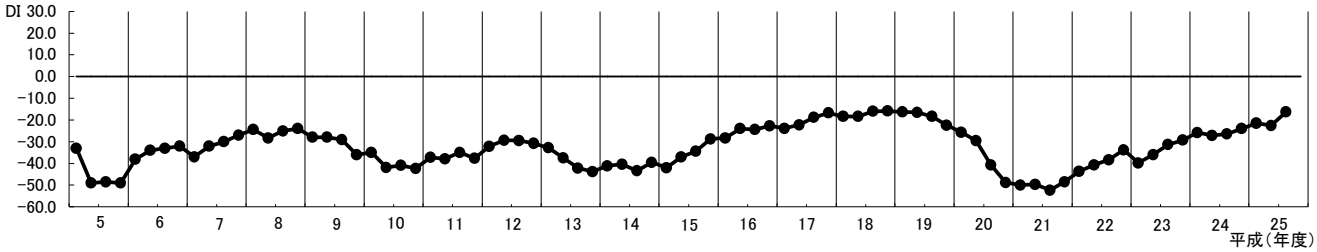
調査実施機関　社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関　株式会社帝国データバンク

１．都内中小企業の景況（平成 25 年 10～12 月期）

（社団法人　東京都信用金庫協会調べ）

全業種で大きく改善
～建設業プラスに転じる～



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－16.3（前期は－22.6）と前期に比べ 6.3 ポイント改善した。業種別にみると、全業種で大きく改善し、建設業はプラスに転じた。

来期は全業種とも改善傾向が続くと予想している。

	前　　期	今　　期	増　　減	来期予想	今期との増減
製　造　業	△ 24.6	△ 17.6	7.0	△ 11.7	5.9
卸　売　業	△ 22.7	△ 16.4	6.3	△ 5.1	11.3
小　売　業	△ 34.5	△ 30.0	4.5	△ 25.8	4.2
サービス業	△ 19.6	△ 13.9	5.7	△ 7.2	6.7
建　設　業	△ 4.5	3.5	8.0	9.6	6.1
不動産業	△ 7.7	△ 0.4	7.3	2.5	2.9
総　　合	△ 22.6	△ 16.3	6.3	△ 10.2	6.1

＜製造業＞

業況は水面下ながら大幅に改善した。売上額・受注残・収益はともに減少幅・減益幅が大きく縮小した。価格面では、販売価格は幾分厳しさが和らぎ、原材料価格はわずかに上昇が強まった。

業種別にみると、「電気機械」「化学工業」「精密機械」「建設用金属」「プラスチック」「プレス・メッキ」「一般機械」「繊維・衣服」「皮革関連」「ゴム製品」「木材・家具」「印刷関連」が大きく改善した。一方、「輸送用機械」「食料品」は多少低調感を強めた。

来期の業況はさらに厳しさが和らぐと予想している。売上額・受注残・収益はともに改善するものとみている。

＜卸売業＞

業況は、大きく悪化幅が縮小した。売上額・収益はともにやや上向いた。価格面では、販売価格はわずかに好転し、仕入価格は多少上昇が強まった。

業種別では、水面下ながら「機械器具」「建築材料」「繊維・衣服」が大きく持ち直し、「食料品・飲食料品」はやや悪化幅が縮小した。

来期の業況は、水面下ながら大幅に上向くと予想している。売上額は増加に転じ、収益は回復の兆しが見えるものとみている。

＜小売業＞

業況は、水面下ながら若干持ち直した。売上額・収益はともに多少減少が一服した。価格面では、販売価格は幾分下降傾向が改善し、仕入価格はやや上昇が強まった。

業種別では、「木材・建築材料」「ガソリンスタンド・燃料」「自転車・自動車」「家電・家庭用機械」「飲食店」「家具・建具・じゅう器」が水面下ながら大幅に持ち直し、「医薬品・化粧品」「飲食料品」「繊維・衣服・身の回り品」はやや悪化幅が縮小した。

来期の業況は、水面下ながら上向くと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

＜サービス業＞

業況は大幅に上向いた。売上額は幾分減少幅が縮小し、収益は多少減少に歯止めがかかった。価格面では、料金価格の厳しさがやや和らぎ、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別にみると、「情報サービス・調査・広告」は大きく好転した。「自動車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」はともに多少厳しさが和らいだ。

来期の業況は明るさが見えるものと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するとみている。

＜建設業＞

業況は大幅に好転した。売上額は大きく増勢に転じ、受注残・施工高はともにかなり好調感を強めた。収益はやや持ち直した。価格面では、請負価格はかなり上昇に転じ、材料価格は大きく上昇傾向を強めた。

業種別にみると、「職別工事」はかなり良好感が強まり、「総合工事」は大幅に好転した。また、「設備工事」は幾分良好感が出た。

来期の業況は良好感が強まると予想している。受注残は今期同様の水準で推移し、売上額・施工高は好調さを強め、収益は水面下を脱するとみている。

＜不動産業＞

業況は水面下ながら大幅に改善した。売上額・収益はともに減少幅・減益幅がわずかに縮小した。価格面では、販売価格は大幅に好転した。仕入価格は大きく上昇幅が拡大した。

業種別にみると、「建売・土地売買」は大幅に良好感が強まった。「不動産代理・仲介」は水面下ながら幾分改善した。

来期の業況は、好調に転じるものと予想している。売上額・収益はともに水面下を脱するものとみている。

[注]

○D.I（Diffusion Index の略）（ディフュージョンインデックス）

D.I（ディーアイ）は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去５年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。